

M E S S A G E

# 田舎暮らしが教えてくれる 素晴らしさ

人生は短いですよ。うまくいって80年。

だから僕は人生を思いっきり楽しみたいんです。人生は苦しむためではなく、楽しむためにあると思っています。だから、山があって、海があって、季節の花があって時々都会へ行って、そういう場所で暮らしています。結婚して子供が出来て、特にその想いが強くなりました。家族と一緒に過ごす時間というのは、考えてみたら20年位しかないんですね。子供は成長して高校卒業して、家を出て行くので、せめて共通の原体験を季節の中で感じたかったのです。親のエゴかもしれませんが、それが田舎暮らしだったんです。

今の家の近くの海岸からは、投げ釣りで魚が釣れます。「チヌ」や「キス」や「アイナメ」など30～40cmの魚が船に乗らずに釣れます。釣れない時でも、竿の先をポーッと眺めているだけで満足です。なんととっても、土の上で花や野菜を作ってみたかったんです。無農薬で野菜を作ったりしていますが、虫や鳥がほとんど食べてしまいます。でも、趣味でやっていますので……。

「キュウリ」「ナス」「トマト」「ピーマン」「カボチャ」……野菜の花もまた可愛いですからね。僕が留守の時の手入れを、畑仕事なんてやったこのとのない奥さんに頼んでいたら、僕よりも野菜作りの達人になってしまいました。そしてこの野菜で料理を作ります。何となく心がわくわくしてきます。

高度成長期の日本では、小さい頃によく遊んだ川や森などの自然が潰され実に淋しいです。川はせき止められ、山にコンクリートの道が出来、海は埋め立てられてしまいました。

人々は世の中のスピードの変化に心がゆがみ、色々な事件が毎日のように新聞を賑わしています。本当にこのままでもいいのでしょうか。

それで自分たちを取り巻く環境とか社会の問題に必然的に関心を持つようになりました。だって、自分が遊んでいる時に隣で苦しんでいる人がいたら楽しめないでしょう？ 食べるものがなくて泣いている人がいたら助けてあげたいと思いますよね。それが自然ではないで

しょうか。

この年になって、人の幸せって何だろう？ って考える時があります。

休みの日に子供と一緒に野原へ行って、思いっきり汗かいて、みんなで寝転がって、おかあちゃんが作ったおにぎりを食べて、「おいしい～」と感じたら、もうそれ以上の幸せはないんじゃないでしょうか。幸せは内側で感じるものです。誰かと比較したり、外側の目線で何番目だからということではありません。だから自分の感性、自分なりの歌い方で人生を、歩いて行く。それが一番の幸せだと思います。

自分がよく見えている人は、相手のこともよく分かります。心に余裕が生まれます。柔らかな、穏やかな心です。すると、ポジティブに社会に関わり、リスクを負うことに喜びを感じるようになります。地域の村おこしなどは、このような人たちが中心となって、成熟させていく方法もあるのではないかと思います。

自分が住んでいる国や地域は、実は全て神様のもの

## 南こうせつ

MINAMI Kousetsu

### ■経歴:

- 1949年、大分に生まれる。
- 1970年から「かぐや姫」というバンドで活躍。
- その独特の音楽性とバイタリティーで、創世期のフォークミュージックシーンに強烈なインパクトを与えた。「神田川」「赤ちょうちん」「妹」等、ミリオンセラーを数多く発表し、「かぐや姫」時代とあわせて6枚のアルバムでヒットチャート、ナンバーワンを記録した。
- 1975年、かぐや姫解散後も「夏の少女」「夢一夜」等のヒット作品を発表する。又、深夜放送などでもそのユニークなキャラクターと巧みな語り口で、人気パーソナリティーとなる。
- 1975年に、つま恋で開催されたオールナイトコンサートでは、吉田拓郎と共に6万人の若者を集め、その後も日本人アーティストとして初の武道館公演を成功させるなど、当時からビッグイベントのバイオニア的存在であった。
- それまでのビッグイベントの集大成ともいべきコンサートとして、「南こうせつサマーピクニック」を1981年より1990年まで開催。
- 毎夏、九州地区で行われたオールナイトコンサートであり、10年間というロングレンジで企画されたこうせつのライフワークともいべき野外イベントである。
- 平和を愛する想いから「広島ピースコンサート」を1986年に始め、10年間で約2億円の寄付を広島市に残した。それがきっかけとなり、新しい原爆養護ホームが建設されベネフィットコンサートでも大きな足跡を残した。
- 一方音楽を通し、減少しつつある都会の緑の大切さをメッセージする、「自然」とのふれ合いコンサート「GREEN PARADISE」を1992年より毎年4月29日(みどりの日)に日比谷野外音楽堂にて開催。(2004年で通算13回目)
- 1998年からはNHK-BS2「フォーク大集合 南こうせつとアコースティック・フレンズ」のホスト役を4年間担当。
- 1999年のサマーピクニックドリームをきっかけに「かぐや姫」として、その暮れのNHK紅白歌合戦に出場、翌2000年5月～2001年1月にかけて、かぐや姫の再結成コンサートツアー「かぐや姫ベストドリーミン」を行い、各地で成功をおさめる。
- 2002年9月15日にアメリカでベストアルバムをリリース。
- 2003年4月にオリジナルアルバム「ときのしらべ」を発売する等、創作活動においても常に前向きな姿勢で取り組んでいる。
- 同年6月には全米5箇所のツアーを敢行。好評だったニューヨークでのコンサートを「Live in New York」として12月にリリースした。



だと思います。自分の所有物は何一つ無いと思っています。人間社会の便宜上、国境があったり誰それものという事になっているだけだと思います。自分は縁があって、今の時期だけそれを借り受けて使わせて貰っていると僕は思います。そして次の世代に、借り受けている家や土地を渡していくことになります。例えば、自分が借り受けたアパートの部屋で、障子は破るは、壁は蹴散らすは、畳はぼろぼろに汚しっぱなしで返すわけにはいかないでしょう？ 人として。それを元通りにしないまでも、死ぬまでに散らかした座布団ぐらいは片付けておきたいですね。

長い歴史の中で、ほんのこの戦後60年の間で、限られた資源を食い尽くし、経済優先の価値観で、我々はゴミの山の中に埋もれています。

本当の幸福とは、本当の勝ち組とはどんなアイデンティティなのでしょうか。今ひとりひとりに問われています。そしてそのヒントは自然の中にあるような気がします。